

[年度] 平成 27 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] サツマイモ「なんたん蜜姫」優良系統の選抜と栽培技術

[担当機関名] 農業試験場栽培部、東牟婁振興局農業振興課 [連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

串本地域では、「さいぱん」と呼ばれる在来系統のサツマイモが栽培されており、現在「なんたん蜜姫」の商標でブランド化に向けた取り組みが行われています。しかし、自家増殖により形質の異なる系統が混在し、ブランド化の妨げとなっています。そこで、優良系統の選抜と栽培技術を確立します。

[研究の成果]

1. 平成 23 年から現地で系統の収集と選抜を開始し、平成 24 年には収量と形状、糖度に優れる系統 C および②-1 の 2 系統を選抜しました。平成 26 年には糖度が高く、採苗性に優れた系統 C を、「なんたん蜜姫」の優良系統として選抜しました（図 1, 2, 3）。



図 1 「なんたん蜜姫」優良系統 C

撮影：平成 27 年 10 月 26 日
撮影場所：場内露地圃場

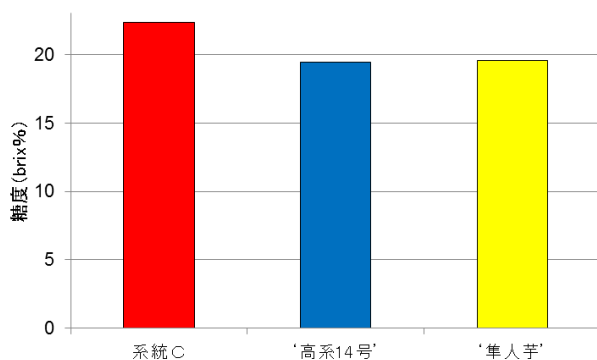


図 2 供試系統および品種の糖度 (Brix%)

注) 栽植様式：株間 30cm、1 条植え、畝間 100cm
定植日：平成 26 年 5 月 18 日
調査方法：10 月 9 日に収穫した各系統および品種を、15°C に保った貯蔵庫内で貯蔵し、約 2 か月後の 12 月 9 日に糖度 (Brix%) を測定した。

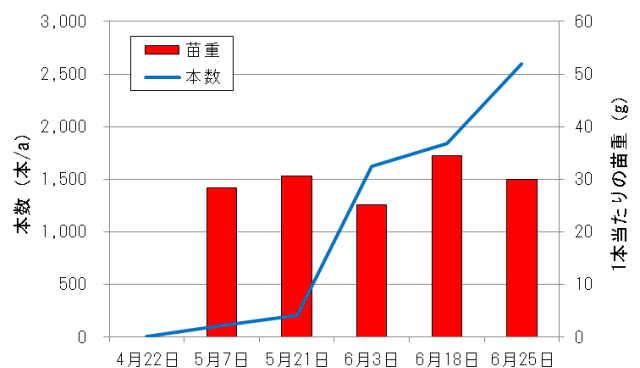


図 3 採苗本数と苗重の推移

注) 試験は串本町現地圃場で実施した。
栽植様式：株間 20cm、2 条植え、畝間 100cm
栽培方法：平成 26 年 2 月 24 日から伏せ込みを行い、4 月 11 日まで二重トンネル被覆を行った。
調査方法：4 月 22 日から 2 週間毎に採苗を実施し、苗の本数および苗重を測定した。

3. 黒マルチで被覆をすることにより、150 g 以上の塊根の割合が増加し、総収量が増加する傾向がみられました（図4）。

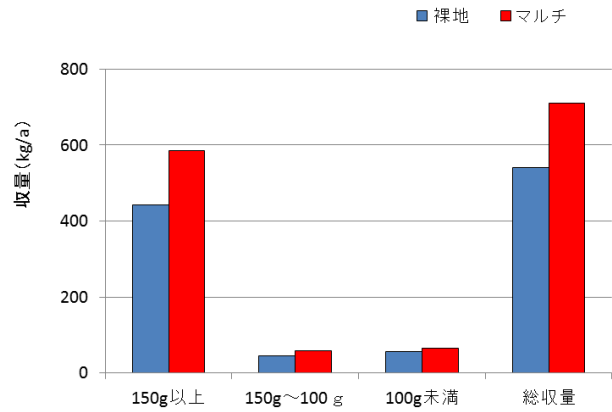


図4 マルチ被覆が収量に及ぼす影響

注) 栽植様式は図2と同じ。
 マルチ区には黒マルチを被覆した。
 定植日：平成25年5月28日
 調査方法：10月14日に収穫した塊根の階級構成を調査した。

4. 収穫後30日以上貯蔵すると、糖度が3.7~5.1%上昇し、その後一定の値を保ちました（図5）。

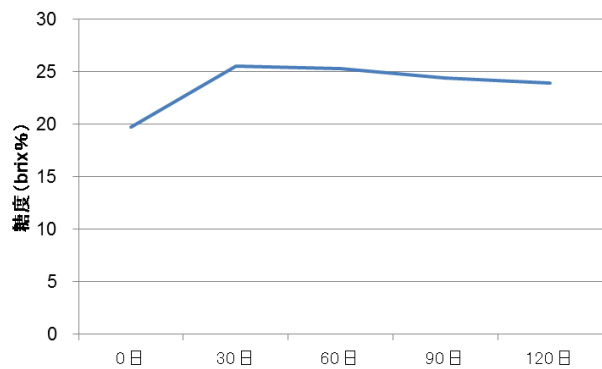


図5 貯蔵期間が糖度に及ぼす影響 (Brix%)

注) 栽植様式：株間30cm、1条植え、畝間90cm
 定植日：平成25年5月28日
 調査方法：10月15日（生育140日）に収穫した塊根を、15℃に保った貯蔵庫内で貯蔵し、貯蔵30日、60日、90日、120日に糖度 (Brix%) を測定した。

[成果のポイントと活用]

1. 紀南農業協同組合が平成28年度中に品種登録出願を行う予定です。
2. 「なんたん蜜姫」の商標は、紀南農業協同組合が権利者となっています。
3. 黒マルチ被覆を行うことにより、秀品率の向上と総収量の増加が期待できます。
4. 収穫後、30日以上貯蔵することで糖度が上昇します。
5. 系統Cの活用により、ブランド化の一層の進展が期待されます。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業） 研究期間：平成25~27年

研究担当者：東卓弥、矢部泰弘、橋本真明、堺隼人、千賀泰斗、

塩崎博史・谷口正幸（東牟婁振興局農業振興課）

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可